

(一般情報)

サルも防げる防護柵を設置

～中山間地での安定した農業生産を目指して～

夷隅農業事務所改良普及課 令和2年10月13日発

夷隅地域の山間部では、イノシシやサル、シカ等、農作物の獣害が深刻な問題となっています。特にサルは、一般の電気柵では侵入を防ぐことが難しく対策に苦慮しています。

そこで、農業事務所では、関西地方でサル対策に実績のある複合柵「おじろ用心棒」の設置試験を勝浦市の大森営農組合と協力して行いました。この複合柵は、ワイヤーメッシュの柵の上に3段の電線を張り、上からの侵入を防ぐ構造です。

サルの被害を受けていた試験圃場のスナップエンドウは、複合柵の設置後、被害がなくなりました。後作の抑制トウモロコシも被害を受けることがなく、地元小学校の収穫体験に提供することができました。営農組合では、「これからは、サルを心配せずに作付けできる」と効果を実感していました。

農業事務所では、中山間地域の農業振興のために、今後も獣害対策に取り組みます。



防護柵の設置作業



サル被害がなく順調に生育したトウモロコシ